

# トンネル内注意喚起実験

## 課題

- 「トンネル内で自転車を車両が追い抜く際、車両速度が高い・車両が接近しており危険」との声があがっている。
- トンネル入口等の常設看板による注意喚起は、ドライバーの見落としや慣れにより効果の大きさや持続性が低い可能性がある。

## 目的

- 自転車の走行有無に応じた変則的かつ視認性の高い注意喚起による、自動車の走行挙動（走行位置や走行速度）への影響把握

## 実験概要

【実験時期】令和5年9月上旬～10月末頃（降雪前）

【実験場所】樺立トンネル（国道393号）

【実験内容】・ドライバーに対してトンネル内の自転車への注意喚起装置を設置。

（トンネル入口に自転車検知のためのセンサーを設置し、自転車走行時のみトンネル内で導光板による注意喚起を実施。）

・注意喚起の有無による自動車の走行挙動の変化を分析

【計測項目】・プローブ自転車による、自転車追い抜き時の

自動車の走行位置、走行速度

## 参加機関

羊蹄二セコ自転車走行協議会、文教大学、倶知安警察署、小樽開発建設部

## 実験スケジュール

9月上旬：注意喚起装置の設置

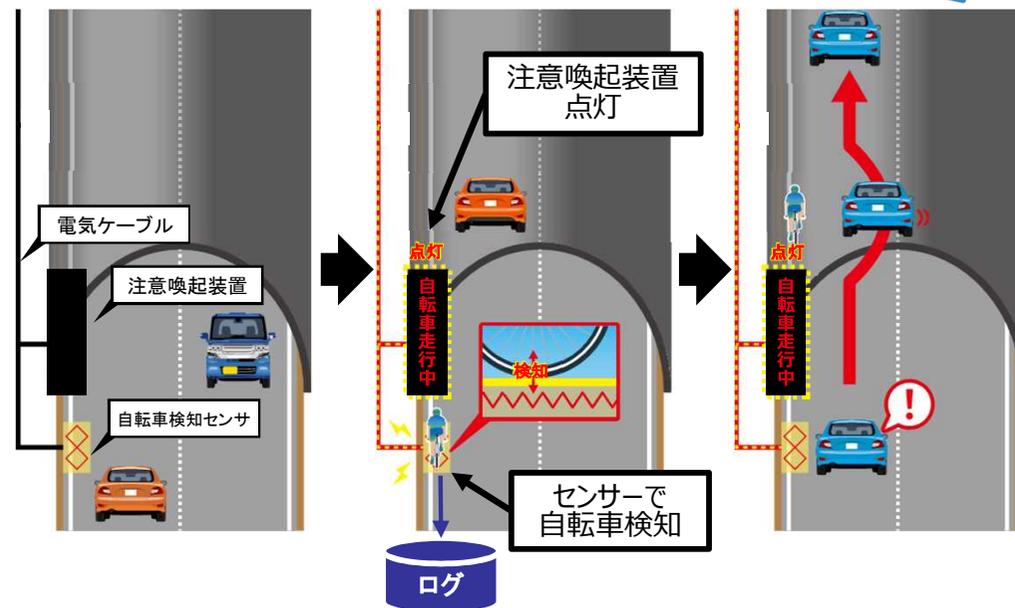
9月中旬：データ計測

10月末頃：注意喚起装置の撤去

※本実験は、新道路技術会議「車道基本の自転車通行環境整備による交通事故特性と新たな道路交通安全改善策に関する研究開発」との共同研究の一環



計測  
注意喚起の有無ごとの  
・走行位置  
・走行速度



＜トンネル内自転車走行時の動的注意喚起の実験イメージ＞